

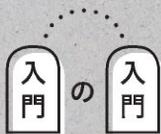


の
入
門

邦
楽
入
門



京
都
和
の
文
化
体
験
の
日



ハロー、邦楽！
その前に…

「邦楽」って なんだらう？

日本には、歌舞伎や能楽、文楽に華道、茶道など様々な伝統文化・伝統芸能があります。今回のこの冊子で取り上げるのは、その数ある伝統芸能の中でも「邦楽」です。

「邦楽」って、お琴とか？ なんだかハードル高そう……と思った方、安心してください。実は「邦楽」は、思っている以上に私たちの日常に近いものである「邦楽」について、入門のさらに入門！ の立場から、探っていきたいと思います。

けれども、ちょっと待てよ。たとえばCDショップに行くと、まずは大きく「洋楽」「邦楽」の二種類に分かれているお店が多いです。「邦楽」のコーナーに行って、好きなバンドの新譜をチェックしたり、アイドルの特典付きCD

Dを探したり……え、「邦楽」って、J-POPなんかの、日本の音楽のことを指すんじゃないの？

邦楽の「邦」とは、「わが国」のことなので、伝統音楽もJ-POPも、大きくは同じ括りです。そもそも「邦楽」の定義はすごく曖昧で、専門に研究をされている先生に伺っても「邦楽とは何か……それは究極の質問ですね」と言われてしまうほどなのです。

ひとまずややこしい話は置いておいて、ここでは、現代の私たちにも比較的親しみやすくバリエーションの多い、江戸時代(近世)に育まれた音楽(近世音楽)を主な対象として、それらを「邦楽」と呼んでいる、という理解を進めていきましょう。J-POPや日本人によるロックと区分するために、「純邦楽」と呼ばれることもあります。

実はこれも……

邦楽が由来の

ことばたち

私たちが普段何気なく使っていることばの中にも、実は邦楽を由来としているものがたくさんあります。そのいくつかをご紹介しますみましょう。

◎メリハリ めりはり

「仕事にメリハリを」などと使うことが多いのでは？ 本来、「音声を緩めることと張り上げること」を意味していることばです。邦楽用語のひとつである「減り上り（「メリ」減り）は低い音を表し、「カリ」上り）は高い音を指す）」が転じ、「メリハリ」と一般にも使われるように。

◎さわり

「歌のさわり」「さわりだけやってみましょう」の「さわり」は、邦楽の一つである義太夫節の用語に由来する表現。本来は、義太夫節の中に他の音曲の旋律を取り入れた、曲中で目立つ箇所のことを言います。そこから転じて、一般に曲や物語などの要点、または最も興味を引く部分のことを言うようになりました。

◎勘所 かんどころ

「勘所を押さえる」は、物事の肝心な点をしつかりと捉える……という意味でも使われますが、実は三味線などの弦楽器から生まれたことば。三味線の棹に糸を押さえたとき、正しい音程の出る位置のことを「勘所」と言い、そこから転じたそうです。

◎合いの手 あいのて

会話などの進行を促すために、話の合間にことばを挟むことを指す「合いの手を入れる」。この「合いの手」は、邦楽で歌と歌との間に、三味線などの伴奏楽器だけで演奏する部分のことを言います。それが一般にも広がり、今のような使われ方をするようになりました。

すこし普段の会話を覗いてみるだけでも、こんなに邦楽が由来のことばがあります。それほどまでに、邦楽は私たちの生活に馴染み深いものだったんですね。
それではいざ、邦楽の世界に、入門の入門！

京都市立芸術大学 准教授

竹内有一 先生に訊く

邦楽ってホントに面白いの？

入門の入門
その1



竹内有一
たけうち・ゆういち

1967年 長野市生まれ。京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター准教授。専門は日本音楽史・近世邦楽。常磐津若音太夫の名で実演活動にも取り組む。

邦楽って、なんだか難しそう。

どう楽しんだらいいのかわからない……

そんな人も多いのでは？

邦楽の歴史研究と常磐津とまわづの演奏で

活動されている竹内有一先生に、

邦楽の面白さを伺いました。

いつから「伝統芸能」に？

現在では邦楽のことを「伝統芸能」

と言っていますが、三味線や箏ことうは、江

戸時代はもっとポピュラーだったんで

す。三味線は当時の七、八割が歌舞伎

の音楽として使われ、その人気に伴って身近なものでした。江戸時代には常に新作が出続けていたので、今で言うテレビドラマや映画の音楽と同じ感覚で楽しまれたのでしょうか。さらには

見たり聞いたりだけでは物足りなくなくて、三味線や歌を自分でもまねしてみよう。カラオケやコピーバンドみたいな感覚でしょうね。そういうお稽古ごととして、長唄、常磐津節、義太夫節などは大流行したんですよ。

また、関西で発達した地歌じか、箏曲そうきょく

は「女性が嗜むべきもの」とされていた。花嫁修行の必須アイテムだったんですね。姿勢を良くして、お辞儀をして……というところからはじまる、音楽を通じた人間教育が目的でした。

明治以降、文化が多様化していく中で、邦楽のあり方が変わってきました。音楽だけではなく、衣食住にも同じことが言えますよね。今、日常的に着物で生活している人は少ないですし、和食だけ食べるという人も珍しい。音楽・芸能もそれと同じような流れなのではないでしょうか。

邦楽はリズムがとりにくい？

邦楽はどうもリズムがとりにくいと言われます。テンポがゆっくり、まったりで……。でも、ほとんどの邦楽は、曲ができた当初は、今よりずっと速いテンポだったんですよ。明治のレコードで雅楽「越天楽」を聴くと、びっくりする速さです。能楽は、室町時代に

は「女性が嗜むべきもの」とされていた。花嫁修行の必須アイテムだったんですね。姿勢を良くして、お辞儀をして……というところからはじまる、音楽を通じた人間教育が目的でした。

は今の倍速ぐらい。では、どうしてゆつくりになったのでしょうか？ ひとつには、邦楽が大流行したからなんです。つまり、娯楽や嗜みとして普通の人がお稽古する。練習だから、はじめはゆつくりでないとついていけません。どういう訳かそうやってゆつくりとやる中に、「面白さ」「豊かさ」を発見していった。それが邦楽の、日本人の音楽感覚の特徴なんだと思います。母音を延ばしてア〜ア〜と声を震わせる心地よい、音と音のあいだの「間^ま」を意識すると表現の幅が広がる、格好よく聞こえる。そういう身体感覚、共通感覚を育んできたんでしょね。単純なりズムを犠牲にして、複雑なりズムを生み出して



ったわけです。よく、鼓や三味線の奏者が「イヤー」「ハッ」とか掛け声を出しますが、あれは複雑なりズムに道筋をつけているんです。

実は、邦楽にもリズムがはつきりしているものも多いんですよ。雅楽でも舞を伴う舞楽は明快な2拍子。私のやっている常磐津節でも、「地」といわれる説明的部分は淡々とした2拍子なので、みんなで歌うのも容易。箏や三味線で「合方^{あいかた}」といって楽器が活躍する部分なんかも、明快なりズムで気分を盛り上げてくれますよ。

やっぱり生の 体験が一番！

これから初めて邦楽を聴く方にはぜひ、いろんなものを聴いていただきたいと思います。料理でも、いつも美味しいものばかり食べていたら、本当の良さはわからないですよ。変わったものも食べるから違いがわかる

(笑)。

たくさん聴いて経験値を積んでいく中で、自分の心に触れるものに出会えるはずですよ。やはり、生演奏が一番おすすめです。生の迫力や緊張感は何よりのごちそうです。家に居ながら何でもできる現代ですが、自分から行動することで得られる面白さは、伝統芸能に限ったことではないと思います。

お稽古やワークショップの体験も面白いですよ。最近は初心者向けの講座も多いし、私の勤務先でもやっています。きっかけと勇気を持つとうとすれば、どなたでも大丈夫です。

竹内先生も出演！

「はじめまして 邦楽」

解説付きでわかりやすい、邦楽の公演です。

日時◎ 平成27年12月12日(土)

14:00～(開場 13:30)

場所◎ 大江能楽堂

京都市中京区押小路通

柳馬場東入橋町646

解説◎ 竹内有—

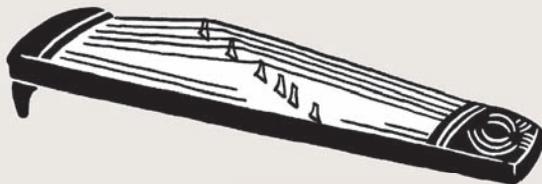
参加費◎ 無料

定員◎ 250名

お申し込み方法は裏表紙をチェック！

【箏】

和琴・楽箏・箏・十七弦など

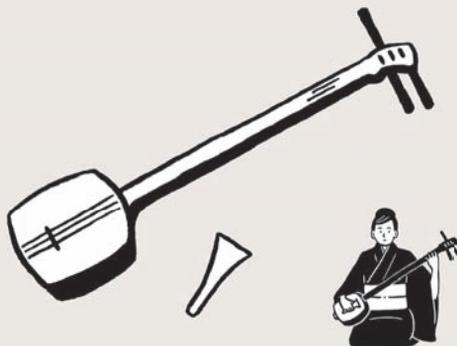


◎箏

一般的に「こと」と言われて大半の人が思い描く楽器は、実は「琴」ではなくこの「箏」のこと。中国の秦の始皇帝の時代に將軍・蒙恬が創作し、奈良時代(710~794年頃)に日本に伝来したと言われている。13本の弦と可動の琴柱からなり、左右の全指を使って演奏する。



弾きもの



【琵琶】

楽琵琶・平家琵琶・薩摩琵琶など

◎平家琵琶

琵琶法師が平家物語を琵琶の伴奏で弾き語りをする際に使用された琵琶。弦は4本で固定柱。雅楽の名手・藤原行長が遁世して比叡山に入り『平家物語十二巻』を著し、それを盲僧生仏が琵琶にのせて語ったのが始まりとされる(吉田兼好『徒然草』より)。

【三味線】

室町時代の末期に、琉球から伝来した蛇味線を改造して創り出したと言われる。一挺、二挺と数え、「太棹」「中棹」「細棹」のように棹の太さで呼ばれるが、実際には胴・皮・駒・撥・糸などの規格(大きさ・太さ・材質・形・重さなど)を少しずつ変えることで、音楽種目や曲目の広がりに対応して発展してきた。歴史上、もっとも多くの日本人が接してきた楽器である。

【胡弓】

三味線を小ぶりにしたような形で、江戸時代以降、さまざまな芸能で用いられる。バイオリンのように弓で弦を擦って演奏する、和楽器の中では唯一の擦弦楽器。

入門の入門 その2

和楽器 あれこれ

邦楽の演奏に用いられる、
和楽器の一部を紹介します！



【縦笛】

笙・尺八など

◎尺八

顎の上げ下げで音高を調整し、頭を左右に揺り動かすことで、音が細かく揺れてその音色を装飾する。虚無僧専用の法具として用いられていたが、明治以降、箏曲・三味線と合奏する三曲合奏が盛んになった。

吹きもの



【横笛】

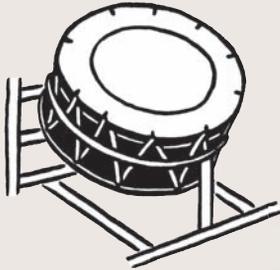
神楽笛・能管・篠笛・竜笛など

◎能管

能楽や長唄の囃子に用いられる。歌口に当てる唇の位置を変化させて音を上げ下げし、指をずらすことで音高に変化をつける。



打ちもの

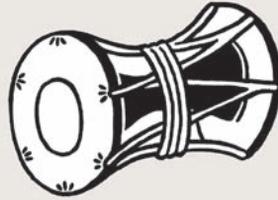


【太鼓】

大太鼓・釣太鼓・締太鼓など

◎締太鼓

室町時代、能の囃子として笛・太鼓・小鼓と合わせて「四拍子」と称し、その用法が確立。ほかにも歌舞伎、長唄の囃子、民俗芸能にも用いられる。



【鼓】

小鼓・大鼓・振鼓など

◎小鼓

能楽や長唄囃子、歌舞伎囃子など多方面で用いられる。音高と音色を調整するために、左手で調紐の緩みを調整して皮革面の張力を加減したり、指の本数や手指の当たる位置の変化で多様な音色を生み出す。



🎵 和楽器をはじめたい人へ

京都市内にもたくさんの教室があり、京都市の生涯学習総合センターや実演家団体主催の入門講座、個人主催のお稽古などさまざまです。若い方は大歓迎のはず。ぜひインターネット等で検索してみてください。もちろん、各大学の部活・サークルもおすすめです！

伝統を

引き継ぐ

ということ



日本の伝統芸能の一つである能は、演奏部門を担当する「囃子方」と、それ以外を担当する「立方」の二つのチームに分かれています。曾和鼓堂さんは、囃子方で小鼓を担当されているお一人。しかも祖父は人間国宝の曾和博朗さん、父も同門の大先輩と、三代にわたり現役で鼓を打たれています。伝統芸能に日々従事されている中で、伝統を引き継いでいくこととはどういうことなのか？お話を伺いました。

祖父の背中を見て学ぶ。

僕は、鼓以外のことをするなんてこと、これっぽっちも考えていないんです。それは父も祖父も曾祖父もそう。みんな鼓が心底好きでやっています。

祖父は、今年で90歳になりました。元気に歩くし、鼓まで打つので周りの人もびっくりですよ。僕は42歳になります。が、「あと50年、鼓を打ちますか？」と言われたら、ちよっと考えると思います。でも、祖父は鼓を打ち続けている。そんな人の姿を間近に見て育ち、勉強させていただいています。

鼓のため、先には能のため、その先には日本のためかもしれないし、京都のためかもしれないけれども、自分が鼓を好きになった理由の一つでもある祖父を大事にすることで、必ず続いていくものがある。またそのうち、自分も憧れてもらえるような、いい先生になりたいなと思うんです。

伝統を繋いでいく。

伝統というのはみんな、どういうふうに繋いでいくと思えますか？

たとえばアーティストの人は、自力で作品を作ります。師匠なしでやることが多いと思いますが、これは伝統ではなくて、道を作る人なわけです。では僕らは何をするか言うたら、いはる人の背中を見ていくんです。父の背中、祖父の背中、そして僕の背中は誰かに見てもらいながら、ものを発信していく。作った道を歩いている人に、荷物持ちでもいいからついていこうとするのが伝統であつたりする。後ろを見ながら、何をしてはるかもわからんやけど、知らんうちに学んでいく。今の人は「曾和さんってどんな人かな」と思ったらすぐにネットで調べます。そして僕や鼓の写真、動画を見て「何回も見ただけど上手にできません」なんて言う。そら、そうですよ。そんなことで伝統はなりません。ネットで

調べた気になって、覚えた気になって、それを試験で書いて合格をもらてるようでは、伝統も知恵も凝縮されたものが頭に入っているとは思えない。

まず空気を感ぜると言うたら難しいけれど、一番大事なものは、人に会って話をすることです。そこから「この人は面白いこと言う人やな」「一言多いな、このおっさん」とか、なんでもいいから感じなあかん。たとえばお店でおっちゃんがあつたかいいものを作ってくれて、きれいに食べて「ごちそうさま」と言うのも、実はそういう一つひとつが伝統に繋がっていつている。「マズイねん！」て言うのも、ある意味伝統やつたりします(笑)。

まずはピンポンを押してみる。

とりあえず門を叩いてみるのもアリ。「入門しよう」という堅苦しいニュアンスも、もうちょっと考えを改めないとダメですね。もう、ピンポンを押し

てみる、というのでどうでしょう。「はい」って出てきたら話を聞いてもらえばいいし、ちよつと気が合わへんなと思つたらダツシユで逃げたらええ。難しい世界やと思うんやなくて、かっこええなあど憧れる気持ちがあつたら、自分もまずやつてみたいいいんです。

鼓の何にそんなに惹かれるかと言われたら、竹まいというか、シルエツトもそうやし、鼓を打っている自分も好き。うーん、鼓が好きですね。鼓でいろんな友人ができたり、知り合いも増えたから、鼓というものは自分とは切つても切れへんもんなんですよね。だからさらに好きなんかもしれません。鼓がなくなつたら、僕どうしようかな。京都市役所で、お茶でも淹れよかな(笑)。



曾和鼓堂 そわ・こどう

1973年生まれ。6歳より稽古を始め、10歳で初舞台を踏む。2015年4月、曾和尚靖より曾和鼓堂に改名。能楽師 幸流 小鼓方。

邦楽 いろいろ

邦楽とひとくくりにも言っても、驚くほどいろんな種類・ジャンルがあります。その複雑さが邦楽の面白さとも言えるかも。ここで紹介するのはほんの一部分なので、ぜひいろんなものを聴いてみて！

雅楽

宮廷や公家、寺社で育まれた音楽。東アジアからの外来音楽と、日本古来の音楽がある。前者は、主に中国の唐楽と朝鮮の高麗楽に由来する器楽合奏。後者は、神楽、東遊、催馬楽など、うたを伴うものがある。箏、笙、龍笛など管楽器が大活躍するが、琵琶、箏、和琴など弦楽器のほか、羯鼓など打楽器の種類も豊富。

Gagaku

仏教音楽

しょう みょう

声明

仏教の法会儀式で僧侶がフシをつけて唱える声楽のこと。仏教とともに中国から伝わり、日本で独自に発達した。仏や徳を讃えたり、その名を連呼するものや経典にフシを付けたものなどがある。

Bukkyo Ongaku

能楽

能

南北朝から室町時代にかけて、観阿弥・世阿弥によって大成された、優美な象徴劇。立方（シテ方・ワキ方・狂言方）と囃子方に分かれて演ずる。シテ方に所属する地謡が、さまざまな物語をうたう。囃子方は、笛（能管）・小鼓・大鼓・太鼓を演奏する。

Nohgaku

狂言

能と同じ舞台上で演じられる喜劇。江戸初期から能とともに幕府の式楽になり、能の狂言方として発達した。写実的な演技により、滑稽に人間の姿を描く。

近世邦楽

浄瑠璃

三味線伴奏の語り物音楽。人形芝居や歌舞伎と提携して発達し、現在は下記の4種目が主流。浄瑠璃方(太夫)と三味線方の分業を基本とする。

◎義太夫節

大阪の竹本義太夫が創始。人形芝居の伴奏音楽として発達した。人間関係の絡み合いや細やかな人情を写実に表現。現在、人形浄瑠璃(文案)と歌舞伎の舞台で、それぞれの専従者が活躍する。

◎常磐津節

京都出身の常磐津文字太夫が創始。芯のある語り口と、江戸っ子好みの洒脱さが好評で、江戸歌舞伎の伴奏音楽(劇場音楽)として発達。分派して富本節、清元節ができ、それぞれが江戸で大流行した。

◎新内節

2世鶴賀新内の美声により、19世紀初頭から江戸で大評判となった。劇場音楽とは異なる繊細さを特徴として、男女間の人情の機微を描き出す。

◎清元節

尺八

琵琶

じうた

地歌

主に京都と大阪で発達し、三味線を伴奏に用いる。16世紀なかば、小編の歌謡や流行歌などを芸術化した「三味線組歌」をルーツとし、箏曲と関連しながら展開したので、落ち着きと品の良さが特色。京都には、柳川三味線という古態の楽器と曲目が現存する。



あわせて
地歌箏曲

そうきょく

箏曲

十三弦の箏を主奏楽器とする音楽。地歌と関連しながら発達し、京都の八橋検校によって大成された。音楽の伴奏のほか、楽器だけで間奏を行う「手事」が発達して魅力を高めた。「六段」など独奏される曲も多いが、三味線・胡弓(のちに尺八)との「三曲合奏」も。

長唄

江戸歌舞伎の舞踊曲として発達した音楽。歌舞伎の演劇的多様性のため、軽快なものからしっとりしたものまで、曲目や曲風は多様。歌舞伎の効果音楽(黒御簾音楽)にも使われる。

Kinsei
Hougaku

はじめての 入門の入門 その5 邦楽鑑賞会

細川 貂々

邦楽の鑑賞会に行きませんか？

→ 京都市役所の藤川さん

行きます!!

和の文化が大好きな私「行く」と即答してみたものの

でも邦楽って何？

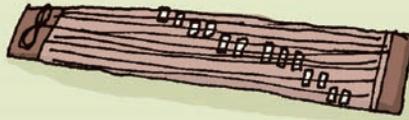
第20回全国学生邦楽フェスティバル
「ほんまもんを聞いてみよう」
@京都市立文化芸術会館

とにかく行ってみよー

この鑑賞会に行ってきました

邦楽とは、大きく言うところ、三味線、尺八などの和楽器を使った、日本の伝統音楽のことです

↑
そうだったのか



箏の音楽って
お正月に聞く
アレしか思い
うかばない

「六段」とか
「春の海」ですね



三味線は
文楽を観る
ときに伴奏で
聞くくらいだし

尺八は友だちの
お父さんが
やってたなあ

でもよく
わからん

うーん

あ、はじまり
ますよ

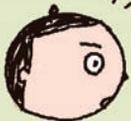


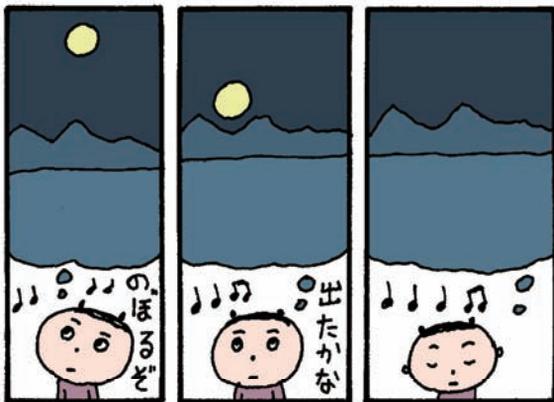
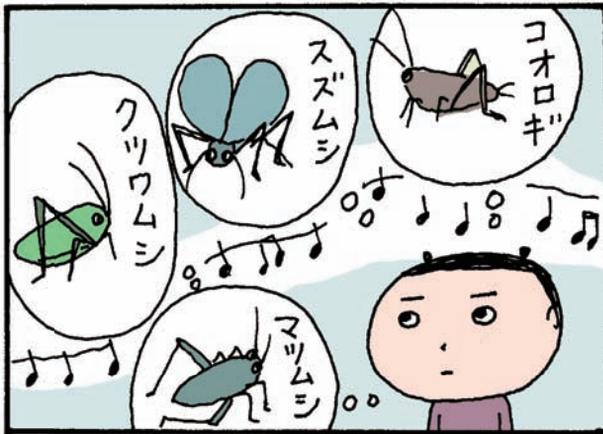
最初は箏
「常世の曲・歌恋慕」

別々の曲を
同時に弾いて
歌います



えっ!!!





そして「玉川」

柳川三味線
という最古の
形の三味線を
弾きます

古い浮世絵などに
描かれてるのは
この三味線です

さあが細い



バチが
小さくて
うすい



三味線弾きながら
歌うのかっこいー

最後の「約束のウタ」
和楽器を使った
現代の曲

尺八

十七弦

箏



ゴンキチみたいで
聞きやすい

ゆったりと
落ちついた
いい曲だな

どうでした？
はじめての
邦楽

おもしろ
かった!!

松花堂弁当
みたいに
楽しめた

邦楽を知って
また新しい
世界が

広がりました

ぜひじっくり
聴いてみてね

特にラップに限らず、アナウンサーの日本語も芝居のセリフもそうなのですが、英語のように子音を効かせてしゃべった

り歌ったりすると、途端に意味が頭に入ってこなくなりまます。子音の強調は音としては変化に富んでおり、リズムにも多様性が出るのですが、アナウンサーの皆さんが自分のバイリンガルぶりをアピールしたいと思えば思うほど、肝心の日本語のアナウンスがおろそかになってしまふのです。

日本の古典芸能では母音を「産み字」と呼んで大切にします。謡でも義太夫でも説教節でも歌舞伎の下座音楽でも、音楽として伸ばして歌うのは結局母音であり、そこに感情をこめるのは必然だからなのですが、もうひとつ根本的に音韻上の大原則

いとうせいこうさんに聞く

伝統芸能

とラップ

があります。日本語は各文字が「子音+母音」でしか存在せず（ん）をのぞく、あらゆる子音はあとに続く母音によってしか弁別できません。

反対に文脈の中で推測するならば、多少子音が鈍い発音でも（冷たし川を流る）が「めたしあわを流る」でも意外に言葉は通じるのです。「産み字」が意味をこの世に産み出す文字だと言われるゆえんだと思います。

このことひとつ理解するだけで、あなたの日本語ラップは数段階上達するはずですよ。アナウンスも芝居もね。

いとうせいこう

1961年、東京生まれ。早稲田大学法学部卒業後、出版社の編集を経て、音楽や舞台、テレビなどの分野でも活躍。著書に『ボタニカル・ライフ』、『想像ラジオ』など多数。

後藤正文さんに聞く 伝統芸能と日本のロック

以前、三線さんせんという沖縄の楽器を習ったのだが、楽譜がまったく読めずに固まってしまった。音楽は横にスクロールするものだと思っていたのに、三線の楽譜は縦書きで表記されていて、おたまじゃくしが一匹も泳いでいなかった。

なんとなく受け入れてきた音楽に関する決まりごとや習慣が、案外日本の伝統的な文化とは繋がっていないという事実がある。ドレミファソラシドだってロックだって輸入品で、根無し草のような気分になってしまふ。

だからこそ、伝統芸能に興味を尽さない。

後藤正文ごとう・まことさん

1976年静岡生まれ。ASIAN KUNG-FU GENERATIONのボーカル&ギターを担当。ほとんどの曲の作詞・作曲を手掛ける。「THE FUTURE TIMES」編集長。ソロでもGuitar名義で活動している。

邦楽ブックガイド

HOUGAKU BOOK GUIDE

これで「邦楽入門の入門」も終わり。
最後に、より邦楽を楽しむために、おすすめの本たちを
ご紹介します！



©アミュー／集英社

『この音とまれ!』 アミュー(集英社)

先輩たちが卒業し、潰れかかっていた時瀬高校華曲部。ただ一人の部員となった武蔵のもとに、不良や箏の天才が入部したことで、全国大会を目指しはじめて……という、なんと「箏」がテーマの青春漫画！ 著者自身も全日本3位の腕前だから。現在9巻まで刊行。



『仏果を得ず』 三浦しをん(双葉文庫)

高校の修学旅行で人形浄瑠璃の虜になった主人公・健が、義太夫節を極めるために青春を懸け、恋をして悩み、成長していく姿を描く。主人公が情熱を注ぐ義太夫節は、邦楽の語り物で「浄瑠璃」と言われるジャンルの一つ。



『図解 日本音楽史』 田中健次(東京堂出版)

より邦楽を知りたい！ という方のために、本気の入門本もご紹介。邦楽をひっくりめた日本音楽について、やさしい説明と図解でわかりやすく説明。難しそうな本が多い邦楽の中でも、手に取りやすい一冊。



『ましろのおと』 羅川真里茂(講談社)

師でもあった祖父を亡くし、自分の弾くべき音を見失ってしまった主人公・澤村雪を中心に描かれる、圧倒的な津軽三味線の世界は鳥肌モノ！ 津軽三味線は邦楽というよりも、民謡から独立した器楽として、現代でも多くの人に親しまれている。現在14巻まで刊行。

©羅川真里茂／講談社

おまけ

「あさが来た」脚本：大森美香、白岡あさ役：波瑠

平成27年9月28日～平成28年4月2日 NHK総合にて午前8：00～8：15放送(月～土)
平成27年度後期のNHK連続テレビ小説「あさが来た」は、幕末に京都の豪商の次女に生まれた「あさ」が主人公。当時名家の娘の素養として必須だった、箏などのお稽古事に奮闘する姿が見られるとか。幕末当時の手習い事の雰囲気を楽しむことができます。

京都大学観風会 第92回定期演奏会

日時 11月22日(日) 15:30
場所 京都府立文化芸術会館
料金 無料
内容 京都大学邦楽サークル観風会による演奏。
問合 京都大学観風会 (ei-fu-kai@yahoo.co.jp)

麗調会箏曲演奏会

日時 11月22日(日) 12:30
場所 京都市国際交流会館イベントホール
料金 無料
内容 古典から現代曲まで幅広く箏曲を演奏。
問合 麗調会 (075-441-6053)

「詩想の夕べ」コンサート

日時 12月11日(金) 19:00
場所 京都府立文化芸術会館
料金 無料
内容 現代邦楽の作曲活動をしている若手作曲家の作品を取り上げたコンサート。
問合 小石雅楽和 (075-381-2673)

夜儀「阿弥陀懺法 律儀」**聲明 講演**(仏教音楽)

日時 12月12日(土) 17:00
場所 総本山知恩院山内 既成院
料金 無料
内容 仏教を講嘆するため、経文に旋律を付けて唱える「声明」を紹介。
問合 魚山大原流声明愛好会梵響座 (090-1969-3221)

京都三曲協会 邦楽を楽しむ会

日時 12月16日(水) 19:00
場所 京都府立文化芸術会館 3階和室
料金 大人：1,000円、高校生以下：500円
内容 解説付きで楽しく聴ける。
問合 京都三曲協会事務局 (075-841-3099)

京都学生三曲連盟ジョイントコンサート

日時 12月20日(日) 14:00
場所 龍谷大学 学友会館
料金 無料
内容 大学生による三曲の演奏。
問合 京都学生三曲連盟代表 (080-5322-7314)

今すぐ行ける！/ 伝統文化 イベント情報

伝統文化にちょっと興味が湧いてきたら、
いろんなイベントに参加してみるのも
おすすめです。この冬に行われる、
伝統文化のイベント情報をまとめました。
ぜひ足を運んでみてください！

邦 楽

京都大原 四季の彩りと千年の響き～秋～

日時 10月31日(土)融通念佛堂「夕時動行」「ベルシャ
悠久3000年の伝統楽器 サントゥール」演奏奉納
11月3日(火・祝)大原魚山聲明塾「涅槃講式」
場所 大原 勝林院(10月31日)・三千院(11月3日)
料金 3,000円(事前申し込み制)
内容 日本伝統音楽の一つである仏教音楽「声明」
を、宗派の垣根を越えて広く紹介。
問合 三千院(075-744-2531)

仏さまのミュージック「天台聲明の夕べ」

日時 11月6日(金) 18:30
場所 京都府立文化芸術会館
料金 前売り券：5,000円、当日券：5,500円
内容 京都の伝統音楽「天台聲明」と現代がクロスオ
ーバーする舞台公演。
問合 K B S 京都事業部 (075-431-8300)

邦楽アンサンブル みやこ風韻第5回記念公演

日時 11月15日(日) 13:00
場所 京都コンサートホール
料金 A席指定：7,000円、B席指定：5,000円、C席：
3,000円
内容 プロ奏者40名による邦楽アンサンブル。ゲス
トにテノール歌手・秋川雅史氏を招いて。
問合 みやこ風韻事務局 (075-371-8972)

華道

第48回京都女流京華会 いけばな展

日時 10月31日(土)・11月1日(日) 10:00～17:00
場所 京都文化博物館
料金 無料
内容 流派を超えた「花との戯れ」錦秋の彩を楽しむ。
問合 京都文化博物館(075-222-0888)

華道香風流 第85回樹立記念日いけばな展

日時 11月3日(火・祝) 10:00～16:00
場所 平安神宮 額殿
料金 無料
内容 平安神宮を訪れる方々と、いけばなを通じた交流会を楽しむ小さな華展。
問合 香風流家元事務局(075-461-6822)

東山末生流華展

日時 11月7日(土)、8日(日) 10:00～17:00
(8日は16:00まで)
場所 総本山 本隆寺
料金 無料
内容 正華、自由花、瓶花(投げ入れ)等の作品を展示。客殿にて茶席あり(無料)。
問合 東山末生流師範会(075-431-1585)

平成27年 月輪末生流献華展

日時 11月14日(土)、15日(日) 9:00～16:00
(15日は15:00まで)
場所 総本山 御寺 泉涌寺
料金 500円
内容 伝統的な生花・彩り豊かな自由花など約100点の作品が並ぶ華展。
問合 華道月輪末生流総司所(075-561-1551)

桑原専慶流 京都支部いけばな展

日時 12月6日(日)
場所 京都国際交流会館
料金 無料
内容 日頃の稽古の腕試しのないけばな展。来場者にはオリジナル絵はがきをプレゼント。
問合 桑原専慶流家元(075-221-2950)

茶道

家元に伝わる茶の湯の道具(三) 表千家歴代ゆかりの床を飾る道具

日時 10月3日(土)～11月30日(月) 9:30～16:30
(入館は16:00まで) ※休館日は直接お問い合わせください
場所 表千家北山会館
料金 一般:800円、大学生・高校生:600円
内容 茶の湯の道具の特別展。10月24日、11月21日には同会場内で「茶の湯文化にふれる市民講座」も実施。
問合 表千家北山会館(075-724-8000)

秋季特別展 正木美術館名品撰 茶墨精粋

日時 10月8日(木)～12月6日(日) 9:30～16:30(入館は16:00まで) ※休館日は直接お問い合わせください
場所 茶道資料館
料金 一般:1,000円、大学生:600円、中・高校生:350円
内容 墨蹟や水彩画、茶道具などを中心に約70点を紹介。入館者には呈茶のサービスも。
問合 茶道資料館(075-431-6474)

二条城 第61回市民大茶会

日時 10月25日(日)、11月1日(日)、11月3日(火・祝) 9:30～15:00
場所 元離宮二条城 清流園内「和楽庵」及び「香雲亭」
料金 2,500円(入城料、茶席、そば席)
内容 二条城内の清流園で、日本の伝統文化の一つである「茶道」を体験。
問合 元離宮二条城事務所(075-841-0096)

狂言

第19回 狂言五笑会

日時 11月16日(月) 19:00
場所 京都府立文化芸術会館 3階和室
料金 一般前売：1,000円、学生：800円
内容 和室ならではのライブ感で、狂言をより身近に！
問合 京都府立文化芸術会館(075-222-1046)

第240回市民狂言会 初心者向け

日時 12月4日(金) 19:00
場所 京都観世会館
料金 前売券：2,500円、当日券：3,000円
内容 昭和32年に第1回を開催して以降、市民に親しまれる狂言会として毎年開催。出演は茂山社中。
問合 京都芸術センター(075-213-1000)

落語

第328回 市民寄席 初心者向け

日時 11月4日(水) 19:00
場所 京都芸術センター講堂
料金 前売券：1,500円、当日券：1,800円
内容 露の雅「つる」、笑福亭昇瓶「ちしゃ医者」、桂九雀「こぶ弁慶」、桂雀三郎「帰り俤」。
問合 ロームシアター京都 開設準備室(075-746-3355)

立川志の輔独演会

日時 11月13日(金)18:00、14日(土)17:00、15日(日)14:00 ※14、15日は残席僅か
場所 京都芸術劇場 春秋座
料金 一般：4,000円、学生&ユース席：2,000円ほか
内容 古典・新作を問わず落語に新しい息吹を吹き込む「志の輔らくご」。
問合 京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター(075-791-9207)

能

素謡の会「宙にただよう恋」<定家>

日時 11月5日(木) 19:00
場所 京都芸術センター
料金 前売：1,500円、当日：1,800円
内容 「謡」を通して、詞章の持つ魅力、響きの美しさに迫る。ナビゲーターは田茂井廣道氏。
問合 京都芸術センター(075-213-1000)

第2回 伝承の会

日時 11月7日(土) 13:00
場所 京都観世会館
料金 一般：3,000円、学生：1,500円
内容 観世流の将来を担う次世代の能楽師を中心とした会。
問合 京都観世会館(075-771-6114)

京都観世会11月例会

日時 11月22日(日) 11:00
場所 京都観世会館
料金 前売：6,000円、当日：6,500円、学生：3,000円
内容 京都観世会の定例公演。
問合 京都観世会館(075-771-6114)

金剛定期能

日時 11月22日(日) 13:30
場所 金剛能楽堂
料金 前売：5,500円、当日：6,000円、学生：3,000円
内容 金剛流の定期能。毎月、宗家以下が総出演。
問合 金剛能楽堂(075-441-7222)

みやびとひかり 能乃会

日時 12月23日(水・祝) 13:00
場所 京都観世会館
料金 前売券：7,000円、当日券：8,000円、学生券：2,500円
内容 次世代への古典芸能の普及促進を目的とした、市民が楽しめる能の会として毎年同日に開催。
問合 京都観世会館(075-771-6114)

 初心者向け … はじめて伝統文化のイベントに行く方に、とくにおすすめのイベントです。

王朝文化の精髓 冷泉家と俊成卿900年

日時	11月8日(日) 10:30
場所	京都府立文化芸術会館ホール
料金	前売:1,500円、当日:1,700円、学生:1,200円
内容	俊成生誕900年を記念し、俊成に光を当てつつ冷泉家の歴史を紐解き詩歌に親しむ。
問合	京都府立文化芸術会館(075-222-1046)

江戸時代の〈教養〉を考える

日時	11月22日(日)、12月20日(日) 第一部「茶書をよむ」16:30、第二部「謡をうたう」18:00
場所	有斐斎 弘道館
料金	一部二部通:3,000円、一部・二部のみ:2,000円 学生はそれぞれ1,000円引き
内容	江戸時代の教養である「茶」と「謡」を楽しむ講座。
問合	有斐斎 弘道館(075-441-6662)

和の学校「こころ塾 茶美会

日本庭園のいろは 作庭家と巡る『南禅寺・金地院』

日時	12月6日(日) 13:00~16:00
場所	臨濟宗大本山 南禅寺 臨濟宗南禅寺派 金地院
料金	2,500円(拝観料含む、事前申し込み制)
内容	美しい日本庭園を知るための楽しみ方、鑑賞のしかたを、作庭家・重森千青氏が語る。
問合	特定非営利活動法人 和の学校(050-7103-2001)

第4回全国高校生伝統文化フェスティバル

日時	12月20日(日) 13:00~16:30
場所	京都コンサートホール
料金	無料(事前申し込み制)
内容	伝統文化に勤しむ全国トップレベルの高校生による公演。第2回全国高校生茶道フェスティバルも同時開催。
問合	京都府高等学校文化連盟事務局(075-922-2208)

月イチ☆古典芸能シリーズ ♡初心者向け

日時	毎月1回開催
料金	無料
内容	はじめて古典芸能に触れる方も楽しめるよう、舞台裏から楽器をつくる職人まで様々な切り口から古典芸能に迫る(日時・会場・内容は京都芸術センターホームページで発表)。
問合	京都芸術センター(075-213-1000)

舞 踊

西川充りさいたる・充の会

日時	11月8日(日) 11:30
場所	祇園甲部歌舞練場
料金	大人:5,500円、大学生まで:3,000円
内容	300年以上の歴史を持つ日本舞踊のりさいたると社中の発表会。
問合	西川充の會事務所(075-761-8554)

歌 舞 伎

當る申歳 吉例顔見世興行 東西合同大歌舞伎 四代目中村鴈治郎襲名披露

日時	11月30日(月)~12月26日(土)
場所	京都四條南座
料金	1等席:25,000円、2等A:12,000円、 2等B:9,500円、3等:7,500円、4等: 5,500円、 特別席:27,000円
内容	東西の歌舞伎俳優が一同に集う、歌舞伎の豪華祭典。
問合	京都四條南座(075-561-1155)

そ の 他

伝統芸能ことはじめ「実盛物語」 ♡初心者向け

日時	11月3日(火・祝) 14:00~15:30
場所	京都芸術センター大広間
料金	無料
内容	歌舞伎や文楽など伝統芸能の演目を取りあげ、小林昌廣氏がわかりやすく解説。
問合	京都芸術センター(075-213-1000)

第42回全国吟詠祭

「愛と希望を持って生きる歌の銀河」

日時	11月3日(火・祝) 9:00~17:00
場所	京都教育文化センター
料金	無料
内容	現代詩・和歌・漢詩・詩舞・創作吟詠舞劇(吟詠オペラ)の発表公演。創作吟詠舞劇シナリオ付き。
問合	京都市詩吟文化連盟(075-982-5307)

京都 和の文化 体験の日

若い人に、もっと日本の伝統文化に親しんでほしい！
そんな思いで京都市がはじめた、「京都・和の文化体験の日」。
2年目の今年は、日本の伝統文化「邦楽」にスポットを当てます。

ショーイング・プログラム

はじめまして 邦楽

日本の伝統文化「邦楽」に気軽に触れられる公演です。解説付きなので分かりやすく、みんなで楽しめる参加型コーナーなど、はじめての人にもぐっと距離を縮められるはず。三味線、太鼓、笛などの華やかな演奏を、ぜひ生でお楽しみください！

- 日時◎ 平成27年12月12日(土) 14:00～(開場 13:30)
場所◎ 大江能楽堂
京都市中京区押小路通柳馬場東入桶町646
地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」徒歩5分
解説◎ 竹内有一
(京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 准教授)
参加費◎ 無料
定員◎ 250名

ミーティング・プログラム

聴いてみよう、触ってみよう にっぽんの音

邦楽には欠かせない楽器、「小鼓」「三味線」を実際に演奏してみませんか？ふだんあまり見ることのない楽器に触れる大チャンス！ 演者・職人さんそれぞれのお話もじっくり伺えます。

小鼓編

- 日時◎ 平成27年12月12日(土) 18:00～
場所◎ ちおん舎
京都市中京区衣棚通三条上る突抜町126
地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」徒歩5分
講師◎ 曾和鼓堂(能楽囃子方 幸流 小鼓)
参加費◎ 1,000円(お茶つき)
定員◎ 20名

三味線編

- 日時◎ 平成27年12月13日(日) 14:00～
場所◎ 宮川町歌舞練場 広間
京都市東山区宮川筋4丁目306
京阪「祇園四条駅」徒歩7分
講師◎ 野中智史(三味線職人)
参加費◎ 無料
定員◎ 20名

申込方法

平成27年9月29日(火)～11月23日(月・祝)
京都いつでもコール ※おかけ間違いにご注意ください
TEL 075-661-3755 / FAX 075-661-5855
<http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000012821.html>
1. 催し名 2. 氏名 3. 年齢 4. 郵便番号・住所 5. 電話番号 6. 同伴者の人数(ショーイング・プログラムは2名まで、ミーティング・プログラムは1名まで)をお伝えください。
※申込多数の場合は抽選(25歳以下優先)。締切後、当選者のみに参加券を送付します。

